

令和2年度病害虫発生予察特殊報第3号

令和2年11月20日
静岡県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 和名：オリーブカタカイガラムシ（カタカイガラムシ科）
学名：*Saissetia oleae* (Olivier)
- 2 発生作物 オリーブ
- 3 発生経過
 - (1) 令和2年9月下旬、静岡県東部地域のオリーブ生産者から、枝にカイガラムシ類が寄生しているとの報告があった。病害虫防除所が現地ほ場を調査した結果、枝葉へのカイガラムシ類の寄生と本種により誘発されたすす病の発生を確認した（写真1～5）。農林水産省名古屋植物防疫所清水支所に同定を依頼した結果、オリーブカタカイガラムシ（*Saissetia oleae*）と診断された。
 - (2) 県中部・西部地域での発生実態を調査した結果、生存虫は確認できなかったが、一部の苗で死亡虫が確認された。
- 4 特徴
 - (1) 分布
本種は世界中の熱帯・亜熱帯地方に広く分布する。環境省の移入種（外来種）リストでは国内に定着していると報告されているが、本県では本種の発生は初確認である。
 - (2) 加害植物
オリーブ、カンキツ類、ガジュマル、アボカド、グアバ、マンゴー、モクタチバナ、アカテツ、コーヒーノキなど様々な樹木類に寄生する。
 - (3) 形態及び生態
雌成虫は体長が3～4mmで楕円形～円形である。未成熟成虫のうちは淡褐色の扁平で、背面に「工」字形の隆起がある（写真1）。成熟した成虫になると、半球状に膨らみ、著しく硬化して、光沢を欠いた暗褐～紫黒色となる（写真2）。
小笠原諸島、南西諸島では、野外で年に数世代を繰り返す。幼虫（写真3）は周年発生するため、年間を通して幼虫～成虫が観察される。一般的には単為生殖である。雌成虫は寄主に固着し、卵を数百個産下する。
 - (4) 被害
枝、葉に寄生し（写真4）、多発すると排泄液（甘露）で、枝、葉、果実がべたついたり、すす病が誘発される（写真5）。
- 5 防除対策
 - (1) 現在、本種に対する登録農薬はない。
 - (2) 本種に寄生された枝や葉は、見つけ次第除去し処分する。
 - (3) オリーブの苗を定植する場合には、本種の寄生に十分注意する。

【参考資料】



写真1 未成熟成虫
(扁平で淡褐色、背面に「工」字形の隆起)



写真2 成熟成虫
(半球状で光沢のない暗褐色～紫黒色)



写真3 幼虫



写真4 オリーブカタカイガラムシが寄生した枝



写真5 すず病が誘発された枝、葉、果実